

令和2年度 板橋区「暴力行為」「いじめ」「不登校」の状況に関する調査結果について

「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」に係る、令和2年度板橋区「暴力行為」「いじめ」「不登校」の状況に関する調査結果について、下記のとおり報告する。

記

1 調査対象

区立小学校（51校）、特別支援学校小学部（1校）および中学校（22校）

2 調査方法

質問紙調査

3 調査対象期間

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

1 暴力行為の状況

(1) 暴力行為の発生学校数等

[単位：件]

年度		令和2年度		令和元年度	
校種	件数	学校数	件数	学校数	件数
	小学校	3	25 (+56.3%) ※	5	16
中学校	10	77 (-36.9%) ※	21	122	

※ 対前年度比

(2) 暴力行為の詳細

[単位：件]

年度		令和2年度		令和元年度	
分類	校種	学校数	件数	学校数	件数
対教師暴力	小学校	2	6	4	6
	中学校	0	0	3	8
生徒間暴力	小学校	2	16	3	4
	中学校	9	73	18	87
対人暴力	小学校	0	0	0	0
	中学校	1	1	1	1
器物損壊	小学校	2	3	3	6
	中学校	3	3	12	26

※ 暴力行為の発生学校は重複している場合があります。

(3) 考察

学校からの報告によると、小学校では、新型コロナウイルス感染症に伴うストレスの増加やコミュニケーション不足でのトラブルで暴力行為が増加したと思われる。

中学校では、新型コロナウイルス感染症対策で行事や部活動、話し合い活動が減少し、生徒同士の関わりが減ったため、暴力行為が減少したと思われる。

2 いじめの状況

(1) いじめ認知件数

[単位：人]

校種	年度	令和2年度	令和元年度
小学校		2834 (-44.4%) ※	5096
中学校		211 (-49.2%) ※	415

※ 対前年度比

(2) いじめの現在の状況

[単位：人、割合の単位：%]

校種		小学校		中学校	
項目	年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度
解消しているもの	件数	1667	3508	137	315
	割合	58.8	68.8	64.9	75.9
解消に向けて取組み中	件数	1167	1588	74	100
	割合	41.2	31.2	35.1	24.1
その他	件数	0	0	0	0
	割合	0	0	0	0
計		2834	5096	211	415

(3) いじめの態様（複数回答可）

[単位：件]

校種		小学校		中学校	
項目	年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。		2110	4039	144	272
仲間はずれ、集団による無視をされる。		381	440	21	31
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。		455	820	16	41
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。		17	5	17	20
金品をたかられる。		2	4	1	5
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。		42	78	6	17
いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする		122	143	5	29
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。		16	27	15	29
その他		0	0	0	0
計		3145	5556	225	444

(4) いじめ発見のきっかけ

〔単位：件〕

校種		小学校		中学校	
項目	年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度
学校の教職員等が発見		2406	4076	150	318
内 訳	学級担任が発見	534	263	47	47
	学級担任以外の教職員が発見 (養護教諭、スクールカウンセラー等の相談員を除く)	27	45	10	9
	養護教諭が発見	12	24	4	3
	スクールカウンセラー等の外部 の相談員が発見	17	26	0	0
	アンケート調査など学校の取組 により発見	1816	3718	89	259
学校の教職員以外からの情報により発見		428	1020	61	97
内 訳	本人からの訴え	308	821	39	64
	当該児童生徒(本人)の保護者から の訴え	58	110	11	24
	児童生徒(本人を除く)からの情 報	52	70	7	4
	保護者(本人の保護者を除く)か らの情報	10	17	4	5
	地域住民からの情報	0	0	0	0
	学校以外の関係機関(相談機関 を含む)からの情報	0	2	0	0
	その他(匿名による投書など)	0	0	0	0
計		2834	5096	211	415

(5) 考察

認知件数が減少した理由は、新型コロナウイルス感染症に伴い臨時休校期間があったことや友達同士の関わりが少なくなったことが原因であると考えられる。

令和2年度のいじめ解消率の低下については、昨年度4・5月は、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業措置により、認知し解消するまでの取組が例年より短かったこと及び、3学期に認知したいじめは、解消と判断することができないという定義に基づく認識が広まってきたことがいじめ解消率の低下の理由として考えられる。

3 不登校の状況

(1) 不登校児童生徒数 [単位：人、出現率の単位：％]

校種		年度	
		令和2年度	令和元年度
小学校	不登校数	275 (+38.2%) ※	199
	出現率	1.17	0.86
中学校	不登校数	424 (+11.3%) ※	381
	出現率	4.64	4.27

※ 対前年度比

(2) 不登校の要因 (主たるもの)

[単位：人]

①小学校

区分 校種	学校に係る状況								家庭に係る状況			本人に係る状況		合計
	いじめ	いじめを除く友人関係をめぐり問題	いじめを除く友人関係をめぐり問題	教職員との関係をめぐり問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動、部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐり問題	入学、転編入学、進路時の不適応	家庭の生活環境の急激な変化	親子の関わり方	家庭内の不和	あそび、非行	
令和2年度	0	39	2	10	0	0	2	11	6	35	3	35	132	275
	23.3%								16.0%			60.7%		
令和元年度	0	24	4	8	1	0	1	3	4	26	8	14	106	199
	20.6%								19.1%			60.3%		

②中学校

区分 校種	学校に係る状況								家庭に係る状況			本人に係る状況		合計
	いじめ	いじめを除く友人関係をめぐり問題	いじめを除く友人関係をめぐり問題	教職員との関係をめぐり問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動、部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐり問題	入学、転編入学、進路時の不適応	家庭の生活環境の急激な変化	親子の関わり方	家庭内の不和	あそび、非行	
令和2年度	0	64	3	30	10	1	5	32	11	29	12	48	179	424
	34.2%								12.3%			53.5%		
令和元年度	0	55	3	25	8	3	5	12	5	40	12	19	194	381
	29.1%								15.0%			55.9%		

(3) 指導の結果登校するようになった児童生徒

〔単位：人 割合の単位：％〕

校種		小学校		中学校	
		令和 2年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 元年度
①指導の結果、登校できるよう になった児童生徒数	人数	73	59	137	90
	割合	26.5	29.6	32.3	23.6
②指導中の児童生徒数	人数	202	140	287	291
	割合	73.5	70.4	67.7	76.4
計		275	199	424	381

(4) 考察

不登校数や出現率の増加については、新型コロナウイルス感染症に伴い、保護者が在宅ワーク等で自宅にいて学校を欠席することの敷居が低くなったことが要因の1つであると考えられる。また、登校意欲を喚起する宿泊行事や文化的行事、部活動等が児童・生徒が期待するように実施できなかったことが、登校意欲の減退や無気力と関係していると考えられる。

中学校で学校復帰率が向上した要因の1つに、学校の組織的な対応があげられる。中学校では、養護教諭が不登校支援に関わる事例が増えており、学校全体で組織的に不登校対策に取り組むことができている。

また、別室登校や放課後登校等、生徒の実態に応じた登校を認めることが、中学校で学校復帰率が向上した要因の1つであると考えられる。